

“研究自戒十戒”（私書版） 50 年の研究歴から学んだこと

東北大学名誉教授 京 極 方 久

この度、横崎 宏神戸大学教授から、神戸大学主宰の第 41 回日本病理学会近畿支部集会で何か話せとご下命を頂き、既にはるか前に現役を退いた老兵に現役パリの会員の皆様のお役に立つお話が出来るかどうか迷いましたが、これは近く 80 歳になろうとする私に永年世話になった病理学会に何か話を残せとのご命令と受け取り、私が沢山の研究協力者と共に送った研究生活で、これが病理の研究を間違いなく進めるためには大切だったと思うことを、10 ほど拾い上げてお話ししてみたいと思います。それらは全て昔からいろんな人により言われてきた当たり前のことばかりですが、自分の経験で矢張り間違いないと確信し、また今でも、或いは将来も変わらず通用することだと思しますので敢えてお話しすることにしました。

今のところその「十戒」とは・・

1. 病理研究の Motivation とは？
2. 人の真似はするな！
3. Negative data の取り扱いで全ては決まる！
4. 手技の確立なくして新発見は無い！
5. 十分な対照を忘れるな！
6. 症例数だけ増しても駄目だ！
7. 形は基本。しかし形に騙されるな！
8. モデル！されどモデル！
9. What? Why? How?
10. 研究者を拘束する勿れ！

これらを、私の主な研究主題であった、リウマチ膠原病、特に血管炎症候群の研究における経験と事例をお示ししつつお話ししたいと思います。